

氏名	平 松 直
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 140 号
学位授与の日付	昭和39年 3 月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系神経精神医学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	老年期精神障害の臨床的研究
論文審査委員	教授 奥村 二吉 教授 小坂 淳夫 教授 砂田 輝武

#### 学 位 論 文 内 容 要 旨

老年期の精神障害は、今日なお未開の分野であり、日常の臨床において老年痴呆もしくは動脈硬化性精神病と診断され殆んどかえりみられていない。私はまず60才以上の精神科入院患者 244 名の統計を求め、次に60才以後に発病した 135 名を主症状により分類した結果脳動脈硬化症群27%、躁うつ群19%、妄想群、痴呆群各17%、錯乱譫妄群、神経症群各10%に認められ、各群について痴呆程度、遺伝負因、誘因、転帰等を検討し、文献的考察を行った。

次に錯乱譫妄群（脳動脈硬化症及び老年痴呆によるものは除く）14件についてくわしく検討した所、8名は風邪、外傷、全身衰弱、手術、心疾患等が誘因となり急に発病し、錯乱、譫妄状態となっており、症候性精神病であり、6名は火事、自殺死体の目撃、借金の督促、親戚間のいさかい等の心因が主要因となり発病していた。老人では身体的原因や心因により精神異常を来し易く、それらが老年痴呆もしくは動脈硬化性精神病と誤られることがあり、これらの点についても検討した。

備 考 岡山医学会雑誌 第76巻 第1,2,3合併号 (1964)

## 論文審査の結果の要旨

平松直提出の「老年期精神障害の臨床的研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

老年期の精神障害は、今日なお未開分野であり、日常の臨床において老年痴呆もしくは動脈硬化性精神病と診断され殆んどかえりみられていない。著者は、まず60才以上の精神科入院患者244名の統計を求め、次に60才以後に発病した135名を主症状により分類した結果脳動脈硬化症群27%、躁うつ群19%、妄想群各17%、錯乱譫妄群、神経症群各10%に認められ、各群について痴呆程度、遺伝負因、誘因、転帰等を検討し、文献的考察を行った。

次に錯乱譫妄群（脳動脈硬化症及び老年痴呆によるものは除く）14件についてくわしく検討した所、8名は風邪、外傷、全身衰弱、手術、心疾患等が誘因となり急に発病し、錯乱、譫妄状態となっており、症候性精神病であり、6名は火事、自殺死体の目撃、借金の督促、親戚間のいさかい等の心因が主要因となり発病していた。老人では身体的原因や心因により精神異常を来し易く、それらが老年痴呆もしくは動脈硬化性精神病と誤られることがあり、これらの点についても検討している。従来我が国にてあまり注目されなかった老人の錯乱せん妄症候群を取り上げて詳しく研究した論文であって新しい知見であり学術上有益な論文であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有するものと認める。